

団体名	呉市	所属	福祉保健課	他団体等との連携	呉地域聴覚障害者防災連絡協議会
連絡先	障害者自立支援係 (0823)25-3523				

取組事例名	聴覚障害者の災害時支援	取組期間	平成24年6月～平成27年3月
--------------	-------------	-------------	-----------------

取組の概要 ～ 聴覚障害者に対する災害時支援についての取組

聴覚障害者の当事者団体とその支援団体（ボランティア）で構成する呉地域聴覚障害者防災連絡協議会と行政が協働して、災害時の聴覚障害者に対する支援の方法等について検討を行い、グッズの作成や啓発活動を行う。

取組の背景 ～ 障害者に対する災害時支援の見直しの必要性

内閣府の調べによると、東日本大震災の際に地区人口の4.5パーセントが亡くなった宮城県南三陸町では、障害者の死亡率はその3倍に近い13パーセントに達しており、この数字からも防災の取組を進める中で、障害者に対する配慮が必要であることがわかる。

障害者を始めとして、高齢者、子ども、外国人、旅行者などは、災害時に、危険を知らせる情報を察知することや、察知した場合でも身を守るための行動をとることが難しいとして、「災害弱者」と言われる。今、「災害弱者」に対する災害時の支援体制の見直しが強く求められている。

取組のねらい ～ 聴覚障害者への災害時支援

「災害弱者」の中でも、聴覚障害者に対する災害時の支援には特別な配慮が必要である。その理由として、周囲にその存在が分かりにくいこと、また、存在が分かってもコミュニケーションが取りづらいことがあげられる。このことを解決していくため、聴覚障害者についての理解を促進し、災害時のコミュニケーションに関する障壁をなくすための取組を行う。また、このことにより、聴覚障害者も正確な情報を得ることができ、災害時の様々な場面において、聴覚障害者が積極的に他の被災者への支援に関わることが可能になる。

取組の具体的内容 ～ グッズの作成と学習会の開催

呉地域聴覚障害者防災連絡協議会が主体となり、くれ協働事業提案制度等を活用し次の活動を行った。

- 1 災害対応マニュアルの作成**
平成24年度に2種類の聴覚障害者のための災害対応マニュアル（当事者用、支援者用）を作成し配布した。
不足が生じているため、平成26年度に追加作成する予定である。
- 2 ビブス、バンダナ、SOSカードの作成**
平成25年度に、災害時に着用するビブス及びバンダナを作成し配布した。
また、緊急時に備えて常時携帯するSOSカードといったグッズも作製した。
ビブスとバンダナについては、不足が生じているため、平成26年度に追加作成する予定である。
- 3 学習会の開催**
毎年度、聴覚障害者の防災意識の向上を目的とした学習会（講演会）を開催し、啓発活動を行っている。平成26年度も、東日本大震災の体験者を講師に招いて学習会を開く予定である。



SOS 私は耳が聞こえません
文字・手話・身振りで伝えてください

ふりがな	名前	男・女
生年月日	西暦 年 月 日	
血液型	型 Rh + -	

救急車を呼んで！ 何かありましたか？ 助けてください！

取組を進めていく中での課題・問題点 ～ 限られた予算での効果的な活動

1 費用対効果

マニュアルを始めとしたグッズの作成には費用がかかる。限られた予算の中で、グッズの作成とそれらが有効に活用されるための啓発活動を効果的に行う必要がある。

2 当事者側の課題

災害時には、自らの身は自ら守る「自助」がまず求められるが、当事者である聴覚障害者には災害時の自助のための備えを行っていない場合が多い。

3 支援者側の課題

聴覚障害者にはどのような配慮や支援が必要かといったことを考えていくためには、支援する側に聴覚障害者についての知識が必要であるが、この知識が一般的に低い。

創意工夫した点 ～ 有効なグッズ作成と関係者への啓発

1 費用対効果を考え、効果的なマニュアルの作成・配付を行った。

- ・ 読みやすさとわかりやすさ（イラストを多用し、カラー印刷A4版16頁で作成）
- ・ 効果的な配布先（当事者用に300部、支援者用3,000部は公的機関や障害者関係団体に配布）

2 聴覚障害者が災害時の自助のための備えを行うため、次のものを作製した。

(1) ビブス

- ・ 災害時に効果的な種類（当事者用と支援者用の2種類）
- ・ 災害時に認識しやすいデザインと色（夜道や避難所での利用も想定）

(2) バンダナ

- ・ 価格を抑えるための作製手法（「すみだバンダナを広める会」の物を改良）
- ・ 視認性の高い文字とイラスト（文字とイラストの色と配置）
- ・ 多用途に対応した形と文字配置（頭・腕・首に巻く、止血、マスク代わり）

(3) SOSカード

- ・ 携帯性と必要な情報の記載の両立（名刺サイズ両面に、当事者の情報等を記載）
- ・ 緊急時に簡単に重要事項を伝えることのできる利便性（指さし用の定型文を記載）

3 支援者側の配慮や知識向上を目指して、次のことを行った。

(1) 学習会の開催

- ・ テーマの選定（当事者の防災意識の向上）

(2) 活動の広報

- ・ 関係者の防災意識の向上（当事者の備えの促進、支援者の「災害弱者」に対する配慮意識）

4 当事者、支援者が連携して課題に取り組むために、協議会が主体となって取組を進めている。

取組の成果（効果） ～ 災害時の自助及び共助の意識の向上

- 1 活動を通して作成されたグッズは、当事者と支援者の双方から大変に好評を得ている。
- 2 障害の当事者が中心となって、自分たちの防災を考え、自分たちで行動したこの取組は、支援される側からも支援する側からも、どうすれば本当に皆が安全に避難できるかを、多くの関係者が考え、工夫する、大きな「きっかけ」になっている。
- 3 呉市の避難訓練への聴覚障害者の参加者が増えているほか、聴覚障害者と救急隊員による緊急時の対応訓練が行われるなど、新たな取組が増えている。
- 4 こうしたことにより、災害弱者を含めた地域の住民が互いに助け合う「共助」の意識の向上が期待される。

今後の展開 ～ それぞれでの継続的な活動

この協同での活動は、平成24年度から3年計画で実施しており、平成26年度で終了となる。その後は、この活動を通じて築かれた協同関係をベースにして、それぞれの団体において、継続して障害者に関する防災に関する知識の普及や啓発などの活動を行っていく。

他団体へのアドバイス ～ 災害時支援を考える上で

怪我をした人や精神的に大きなショックを受けた人々が、共に避難する際に必要となるノウハウの構築や環境整備は、障害者も参加する地域の防災活動の中で進めることが効果的である。

このことは、災害時の自助・共助・公助を考えていく上で、重要なアプローチの一つであると考えられる。